

魚つりに行こう!





ホッピーポップは、明るくて元気なクマの子です。

ある日の朝、ホッピーポップはつりざおとバケツをもって、
出かけて行きました。

「今日は、お魚をつって食べよう。」



ホッピーポップは、さっそくつりを始めました。

とってもいいお天気です。

ザザーン、ザザーン、となみの音が聞こえます。

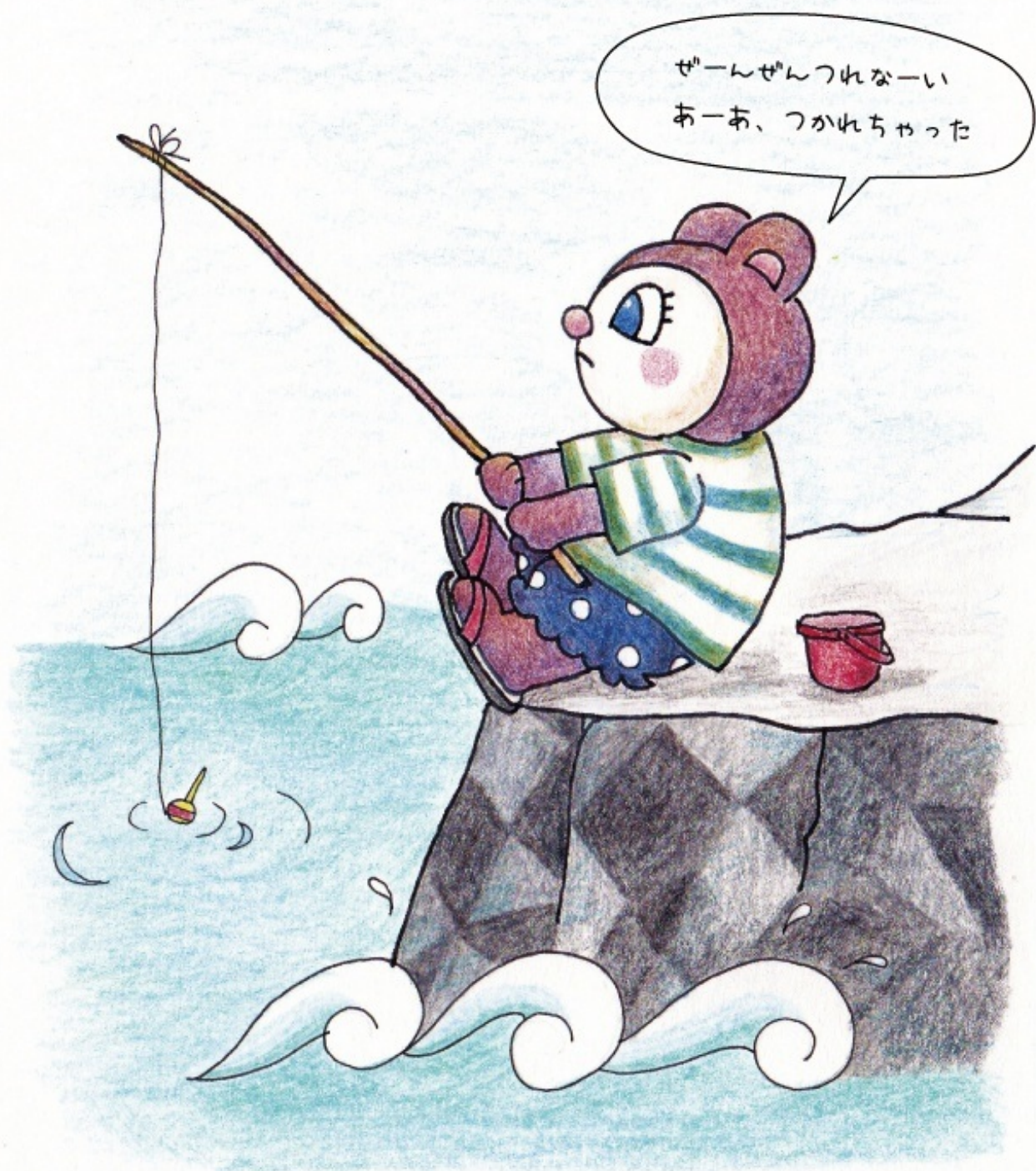
ずいぶん時間がたちました。

まっても、まっても、

魚はちっともつれません。



ザーんぜんつれなーい
あーあ、つかれちゃった



ホッピーポップはつりざおをおいて、ウクレレをひき始めました。
ポロロン、ポロロン、ザザーン、ザザーン。
まるで、ホッピーポップのウクレレに合わせて
海が歌ってるみたい。
ホッピーポップは楽しくなって、歌い始めました。





すると、海の中から何かが顔を出しました。

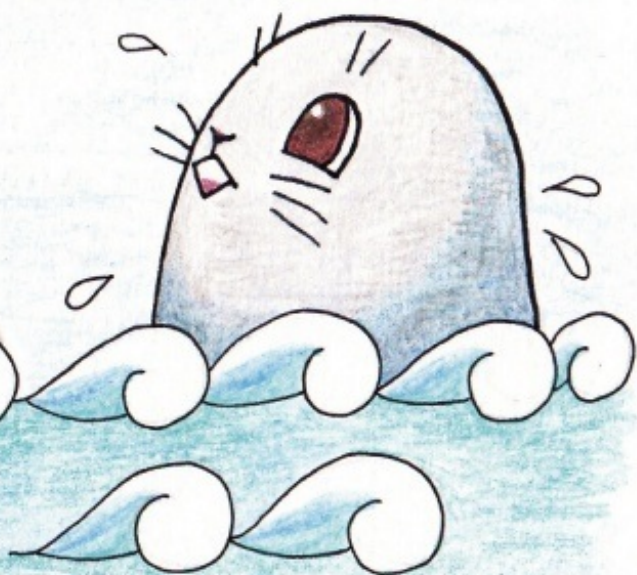
「ステキな音楽だねー。」

ホッピーポップはびっくりしました。

話しかけてきたのは、アザラシでした。



「やあ、ボクはアザラシのナルだよ。」
ホッピーポップも、あいさつしました。
「アハハこんにちは、アザラシさん。
ぼくはホッピーポップ。」
「その、きれいな音はなんなの？」
と、ナルが聞きました。





「これはウクレレだよ。」

ホッピーポップはひいて見せました。

「きみもひいてみない？」

「えっ、ひいてもいいの？」

ナルは、とってもうれしそうでした。



「もちろん！」

でも水の中では音が出ないよ。」





ナルは海から上がって、ホッピーポップのとなりにすわりました。

「ここをおさえて、こうやって、」

ホッピーポップはウクレレのひき方をナルに教えました。



ポロローン、ポロローン、なかなか上手。

ステキな音が鳴りました。

ホッピーポップはバケツをさかさまにして、

たいこみたいにたたきました。

ポロローン、ポロローン、トンタタ、

ポロローン、タタタン、ザザーン、ザザーン、

ふたりはとても楽しくなりました。





しばらくして、ナルが言いました。

「ねえ、ホッピーポップ、きみがたたいている、それは何？」

「これはバケツ。

ほんとうは、つった魚を入れるはずだったんだけど、

ちっともつれなかったんだ。」





「魚がほしいの？ちょっとまって。」

ナルはウクレレをホッピーポップにかえすと、
海にザブンともぐってしまいました。



魚をとったら
すぐもどるね！

ザブーン





そしてしばらくするとまた顔を出しました。

こんどは、きれいな魚をくわえて。

ホッピーポップがあわててバケツを出すと、そこに魚を入れてくれました。



「すごい！魚とるの上手だね！」
ホッピーポップはよろこんで
さげびました。

はい、お魚だよ



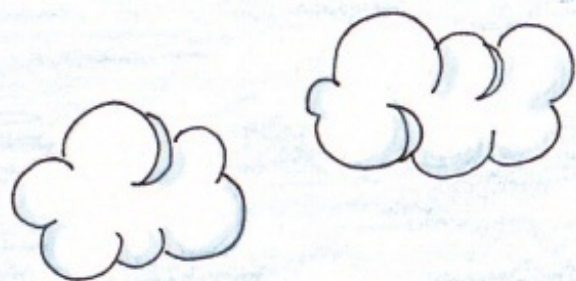
うわあ、
すごーい！



「ウクレレを教えてください、ありがとう。

すごく楽しかったよ！」

「ぼくも楽しかったよ。おいしそうなお魚をありがとう！」



「また会おうね、ホッピーポップ！」

「もちろん！またねナル！」





ホッピーポップはつりざおと、ウクレレと、
魚を入れたバケツをもって、
お家にむかって歩き出しました。





Summer 2013 Sora Natsuno